

X. 静脈血採血・静脈穿刺・静脈注射について

1. 基本的には夜勤業務者が行う

- 1) 同一患者に対し2度失敗したら上位のNrに交替するかDrに依頼する
- 2) 術的・時間的に採血が困難な場合、当日の日勤リーダーにその旨を報告する
- 3) 9時の検体搬送に乗せる（7時30分の便は7北からの搬送）

2. 検体の種類

- 1) 凝固＝黒。規定量厳守
- 2) 血沈＝角管。規定量厳守（スピッツとセットのカバーに規定量を示す線がある）
採血管供給システムではラベルのみ送られてくるので見落としに注意
Nrが病棟在庫スピッツにラベルを貼る
- 3) 血算＝ピンク、稀に茶。できるだけ規定量を守る
- 4) 血中濃度＝こげ茶（生化学・免疫とは異なる）。できるだけ規定量を守る
提出場所はカウンターにある銀色のボックス。他の検体とは異なるので注意
- 5) 血糖＝灰。できるだけ規定量を守る
- 6) 生化学・免疫＝茶。多少の血液量の増減は許容できる
☆規定量厳守のものから分注していく（上記の順）

真空管の採血の場合は生化学・免疫から採取する

☆採血量（注入量）はラベルに記載されている

☆病棟採血管供給システム：前日14時までにDrが入力した採血オーダーに従い、ラベリング・患者別に分包されたスピッツが病棟に送られてくる（コピー機の横）

☆クリップボードに挟まっている一覧表の中でマーカーされているのが採血対象者

“緊急”“院外”の表示があるものは対象外（土日休日は全て緊急扱いのため採血はない）

- 7) 培養検体の提出は検体搬送トレイ内銀色のボックス

3. 採血手順 院内マニュアル参照

採血後は一覧表の患者氏名・検査項目に赤でレ点チェックしサインをする

静脈穿刺手順 院内マニュアル参照

* 留置針は当科では96時間で交換

* 看護師による末梢ライン確保は

- ・翌日、AMのAngio患者（患者の同意を得て）・γナイフ患者・点滴漏れのある患者
- ・無理そうなら迷わずDrへ依頼する

* 挿入後、挿入部に日付・針のサイズを記入、処置指示書に日付・部位・針のサイズ・次の交換日を入力する

* 再留置困難な患者については、処置指示書にルール適応外の旨を入力する

静脈内注射 院内マニュアル参照

* ワンショットは卒後2年目以上で、ワンショットの知識と技術を習得している看護師に限る（院内の静脈注射の試験に合格していることが条件）

* ワンショット：ブドウ糖、強力ネオミノファーゲンシー、クロールトリメトン
点滴静注：抗生物質、単剤の輸液剤（ビタミン剤入り可）